

韓国

回復が続くが新型肺炎の拡大がリスクに

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

副主任研究員 野木森 稔

E-mail: nogimori.minoru@jri.co.jp

■景気回復に水を差す新型肺炎拡大

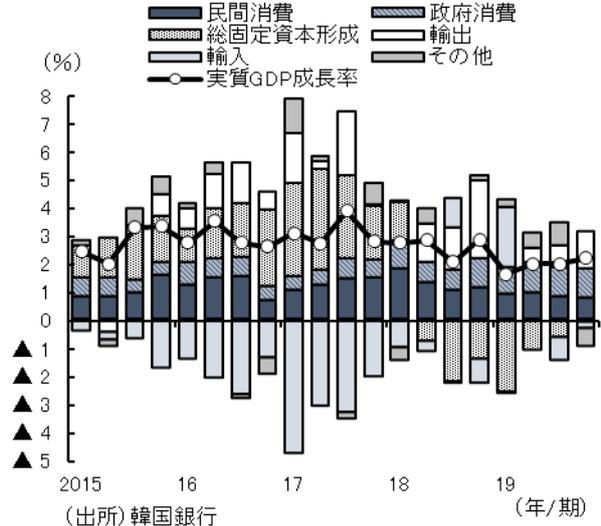
韓国の2019年10~12月期実質GDP成長率は前年同期比+2.2%と、7~9月期の同+2.0%から加速した(右上図)。輸出が同+3.1%と、前期の同+1.8%から伸び率を高めたことが主因である。総固定資本形成は前年同期比▲0.3%とマイナスが続くが、7~9月期の同▲2.1%からマイナス幅を縮小させている。こうした改善の動きは韓国の主力産業である半導体の需要の持ち直しが大きく影響している。世界半導体出荷は2019年12月に前年同月比+1.8%と、2018年11月以来のプラスに転じ、底入れの動きを見せている。韓国においても12月の半導体の出荷指数は同+46.4%と大きく増加する一方、在庫指数は同▲0.8%と低下、生産調整を終え持ち直し局面にあることが示されている。今後、データセンター需要が回復し、5G通信の本格化が進むことで半導体市場は持ち直しの動きを続けると予想され、韓国経済回復の原動力になることが見込まれる。

ただし、そうした明るい見通しに対し、新型肺炎拡大は暗い影を落とす。すでに中国自動車部品企業の生産停止により、韓国自動車企業が工場を一週間程度の操業停止に追い込まれるといった事態も生じている。これに加え、中国人旅行者(中国からの旅行サービス受取: GDP比0.3%)、中国向け輸出(中国・香港向け輸出: GDP比12.1%)への悪影響を通じ、2020年1~3月期は景気の下振れが避けられそうにない。2月14日、洪企画財政部長官はこうした事態を受けて、緊急対策を表明。17日にはLCC(格安航空会社)向けに最大3,000億ウォンの緊急融資を発表した。

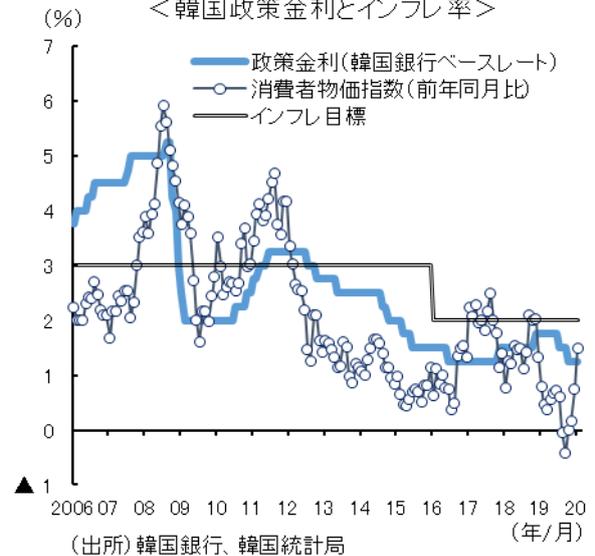
■利下げの可能性も

一方、李韓国銀行総裁は2月14日の洪長官との会談後、ウイルス感染拡大の影響を見極めるにはまだ早いとし、利下げに関して慎重な姿勢を示した。背景には、冒頭に示したように経済が回復基調にあることが挙げられる。加えて、2020年1月の消費者物価指数は前年同月比+1.5%まで上昇、インフレ目標2%に近付いている(右下図)。しかし、18日に文在寅大統領が景気支援に向け「あらゆる措置を講じるべき」と述べる等、政府サイドでは経済が緊急事態にあるという認識が強まっているようである。現時点では、過去最低水準にある政策金利を一段と引き下げる根拠となるデータは確認できないが、事態の展開次第では、今後の会合で予防的な利下げが実施される可能性は否定できない。

<実質GDP成長率(前年同期比)と項目別寄与度>



<韓国政策金利とインフレ率>



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。